



史跡 大室古墳群

謎を秘めた日本最大の積石塚古墳群



長野市教育委員会

大室古墳群について

位置と環境

大室古墳群は、長野盆地の南東部、千曲川東岸の松代町大室地区を中心とした約2.5km四方の範囲に分布する、5世紀から8世紀につくられた総数約500基の群集墳です。東部山地の奇妙山から派生した三つの尾根とこれにはさまれた二つの谷に古墳が集中し、東から「北山」「大室谷」「霞城」「北谷」「金井山」の五つの支群に分けられています。

このうち、大室谷と北谷の二つの谷には約450基の古墳が分布し、尾根上に分布する一般的な古墳群とは異なった大室古墳群の特徴となります。



大室古墳群の支群構成と古墳分布

積石塚と合掌形石室から探る古墳群の被葬者

大室古墳群の最大の特徴は、積石塚・合掌形石室という全国的に珍しい構造をもつ古墳が集中して存在することです。

積石塚とは、土を盛り上げて墳丘を形づくる一般的な古墳に対し、土の代わりに石を用いた古墳のことを呼びます。積石塚の分布は九州から



積石塚に合掌形石室が組み合う168号墳

東北まで広範囲に及びますが、古墳全体からみるとその数は非常にわずかです。大室古墳群では積石塚が全体の70～80%を占めており、これほど集中している場所はほかにありません。

また、合掌形石室とは板石を切妻屋根形に組んで天井とした石室で、全国でも40例ほどしか知られていない特異な埋葬施設です。大室古墳群ではこのうちの半数以上にあたる26例が確認されています。

積石塚や合掌形石室については、早くも明治・大正時代から様々な研究が発表されてきました。なかでも朝鮮半島にみられる類似古墳に起源を求める考えは次第に浸透し、大室古墳群の成立に朝鮮半島からの渡来人が深く関わっていると考えられるようになりました。

さらに、古墳群の被葬者が馬の生産に携わっていた可能性も指摘されています。大室地区周辺は平安時代前期に編纂された『延喜式』に記される「大室牧」があった場所とされ、古墳群から出土する馬具や馬骨・馬形土製品などの馬に関わる品々はその起源が古墳時代までさかのぼる可能性を示しているからです。

馬の生産は朝鮮半島からの渡来人によって5世紀に日本に伝えられ、急速に広まったことが各地の発掘調査で明らかにされつつあります。残念ながらこうした渡来人と大室古墳群とを直接結びつける証拠は見つかっていませんが、今後の調査により被葬者の姿がより明らかになることが期待されています。



168号墳出土馬形土製品
(明治大学考古学研究室提供)

古墳の種類と移り変わり

古墳の種類

昭和24～27年・45～55年の2度にわたって行われた大規模な分布調査では、古墳の位置だけでなく、大きさや構造も詳しく調べられました。その結果、総数約500基ある古墳は、1基の前方後円墳を除いてほとんどが直径15m前後の円墳で、遺体を納めた埋葬施設や埋葬施設を覆う墳丘の材質にいくつかの種類があることがわかりました。

ここでは、埋葬施設の形と墳丘の材質に注目し、それぞれの違いをみてみます。

埋葬施設の形

竪穴式石室

平石を積み上げて四壁をつくり、上から棺や遺体を納める石室です。



195号墳

箱形石棺

板石を組み合わせて箱形の棺とした小型の埋葬施設です。天井は平坦です。



189号墳

合掌形石室

板石を屋根形に組み合わせて天井とした埋葬施設です。石室と呼ばれていますが、下部の構造は箱形石棺とよく似ています。



168号墳

横穴式石室

入口の開閉によって再利用を可能にした大型の石室です。狭い羨道の奥に遺体を安置する玄室があります。



197号墳

墳丘の材質

積石塚

石で墳丘をつくった古墳です。上に登ると「コツコツ」と石がぶつかり合う音が響きます。

土石混合墳

土と石で墳丘をつくった古墳です。見た目では盛土墳との違いがわかりません。

盛土墳

土で墳丘をつくった古墳です。一般的な墳丘ですが、大室古墳群では少数派です。



積石塚の168号墳(手前)と土石混合墳の167号墳(奥)

古墳の移り変わり

3世紀中ごろから7世紀末まで続く古墳時代の中で、大室古墳群が形成されたのはその後半期にあたります。長野盆地では、森將軍塚古墳(千曲市)などの大きな前方後円墳がつくられなくなり、小さな円墳が古墳の中心になっていました。

古墳群でもっとも古い古墳は、5世紀前半につくられたと考えられる全長55mの前方後円墳である18号墳です。この古墳は尾根上の北山支群に属していますが、東側にある和田東山古墳群との関わりが強いと考えられています。

古墳づくりは5世紀中ごろから本格化し、合掌形石室(168号墳など)・箱形石棺(189号墳など)・竪穴式石室(195号墳など)を埋葬施設とする積石塚が6世紀前半までつくられます。この時期にもっとも多く採用された合掌形石室は、241号墳を最後につくられなくなります。

6世紀後半になると、埋葬施設に横穴式石室が導入され、墳丘は土石混合墳が主流になります。大室古墳群で大部分を占めるこのタイプの古墳は7世紀末までつくられますが、羨道と玄室を分ける袖石の有無、石材の大きさや積み方、規模の大小などの石室構造には年代による違いがみられます。

時代	西暦	大室古墳群	出来事・他地域の古墳
古	300		ヒミコが活躍 箸墓古墳
			森將軍塚古墳 川柳將軍塚古墳 土口將軍塚古墳 大仙古墳
墳	400	18号墳 168号墳 241号墳	仏教伝来 藤ノ木古墳 聖徳太子が活躍 石舞台古墳
			高松塚古墳 平城京遷都
時	500	大室古墳群	
代	600	239号墳 244号墳 八号墳	
	700		

大室古墳群年表

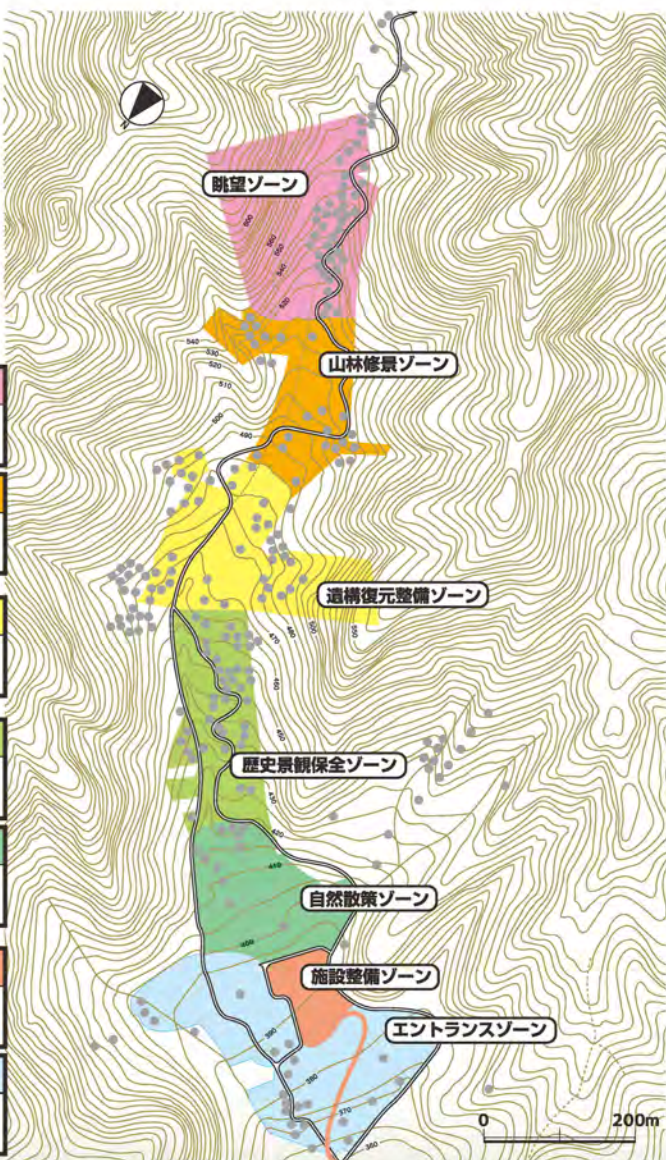
大室古墳群の史跡指定と整備計画

大室古墳群は、平成9年に大室谷支群の主要部分(約16.3ha、古墳数166基)が史跡に指定されました。憩いの場・学習の場・歴史体験の場として古墳群を公開するための史跡整備事業は翌10年からスタートし、広大な指定地を遺構分布・地形・植生などの特徴に応じて7つのゾーンに分け、4期の整備を計画しています。

第1期では、平成14年に大室古墳館が開館し、25年度をもって史跡入口のエントランスゾーンの整備を終えました。

続く26年度からは、第2期の遺構復元整備ゾーンの整備に着手しています。

第4期	眺望ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 古墳群の立地を眺望する場 眺望点、トレッキング
	山林修景ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 森林浴やトレッキングの場 樹林修景、林相改造
第2期	遺構復元整備ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究の場 合掌形石室と積石塚の公開
第3期	歴史景観保全ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 古代空間への移行の場 古墳と樹林の調和した景観
	自然散策ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境を体験する場 古代植生の復元
第1期	施設整備ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 便益施設整備の場 展示、管理、広場、駐車場
	エントランスゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみながら学ぶ場 古墳群全体のガイダンス



ゾーニングと整備計画

古墳整備の流れ～241号墳の場合～

整備前の241号墳は、墳丘上が墓地として使われ、墳形や埋葬施設がわかりませんでした。発掘調査によって、合掌形石室をもつ直径14mの円形の積石塚であることがわかり、復元整備が行われました。



整備前の241号墳



発掘

古墳の元々の姿を調べます。出土した遺構や遺物は、位置や形を正確に記録し、整備の基礎データにします。合掌形石室は天井石が失われていました。

検討

考古学の専門家などを交えて古墳の保存や展示の方法を検討し、合掌形石室を復元して見せることが決まりました。



工事

特殊な素材で天井石をつくり、石室の上に架けました。また、形を変えられていた墳丘も石を積んで復元しました。



完成

見学しやすいように古墳のまわりに説明板や園路を設けて整備は終了です。



高速道路



- おすすめコース
(所要時間 約1時間30分)
- 石室内に入れる古墳
- 石室内を外から見られる古墳

大室谷の開口部に位置し、23基の古墳が公開されています。さまざまな視点から古墳について学べるように、古墳群全体のガイダンスの場として整備されました。季節の花々や遠くの山並みを眺めながら、散策気分で古墳めぐりが楽しめます。



大室古墳群の四季



秋
春
冬
夏

大室古墳館 ～大室古墳群について知る～

古墳見学のガイド施設です。立体模型やパネル・ビデオなどで、古墳群について学ぶことができます。



235号墳 ～石室の裏側と山並みの眺望～



墳丘が半分失われ、横穴式石室の裏側が露出した姿を公開しています。エントランスゾーンで一番高い場所にあり、北信五岳の戸隠連峰・飯縄山から北アルプスまで山並みが一望できます。



235号墳から見える山並み



31～33号墳 ～現代に生きる古墳の姿～

エントランスゾーンの山際にある3基の古墳です。明治時代以降の開墾で段々畑の石垣と一体化した古墳の姿をそのまま公開しています。昭和に入ってから植林されたスギの一部も残され、古代から現代まで姿を変えながら生き続ける古墳の姿を見ることができます。



31号墳 (円墳／横穴 7世紀前半)
段々畑に取り込まれ、石垣の中に石室が開口しています。

ドングリの森

31～33号墳の西側に広がる低地には、未来の子供たちが昆虫採集やドングリ拾いを楽しめるよう、クヌギやコナラ・ヤマグリなど5種類の木が植えられています。





26・27・29、238～242・A～E・八号墳

～ケヤキ林の中に密集する古墳～

ケヤキ林の中にたくさんの古墳が密集しています。元の形がわからないほど壊れていた古墳が多く、A～E号墳の5基は史跡指定後に新たに発見されました。それぞれの古墳の特徴がわかるように、可能な限り墳丘の復元を行っています。



241号墳 (円墳/合掌 6世紀前半)

原形がわからないほど改変されていましたが、発掘調査により合掌形石室が発見されました(写真左)。内部は盗掘を受けて天井石も失われていましたが、剣菱形杏葉(写真右)や環状雲珠・辻金具などの馬具、鉄鏃、100個以上のガラス玉など副葬品が豊富に出土しました。また、墳丘からは埴輪や須恵器・土師器が出土しました。



23、243～246号墳 ～古墳群最大の古墳がお出迎え～

史跡入口にそびえる大室古墳群最大の244号墳をはじめ、5基の古墳が並んでいます。中央の23号墳は今の高速道路用地内にあった古墳で、発掘調査後に現在地に移築復元されました。季節ごとにかわいらしい花を咲かせる山野草が植えられ、古墳めぐりに彩を添えています。

244号墳

(円墳/横穴 7世紀前半)

周溝を含む直径約30m・高さ8mの円墳で、「將軍塚」とも呼ばれます。墳丘を覆う石垣状の石積み(写真右)と古墳周囲をめぐる周溝が特徴で、同じ時期につくられた古墳の中では際立った存在感を示しています。



ムジナゴロ周遊路(遺構復元整備ゾーン)

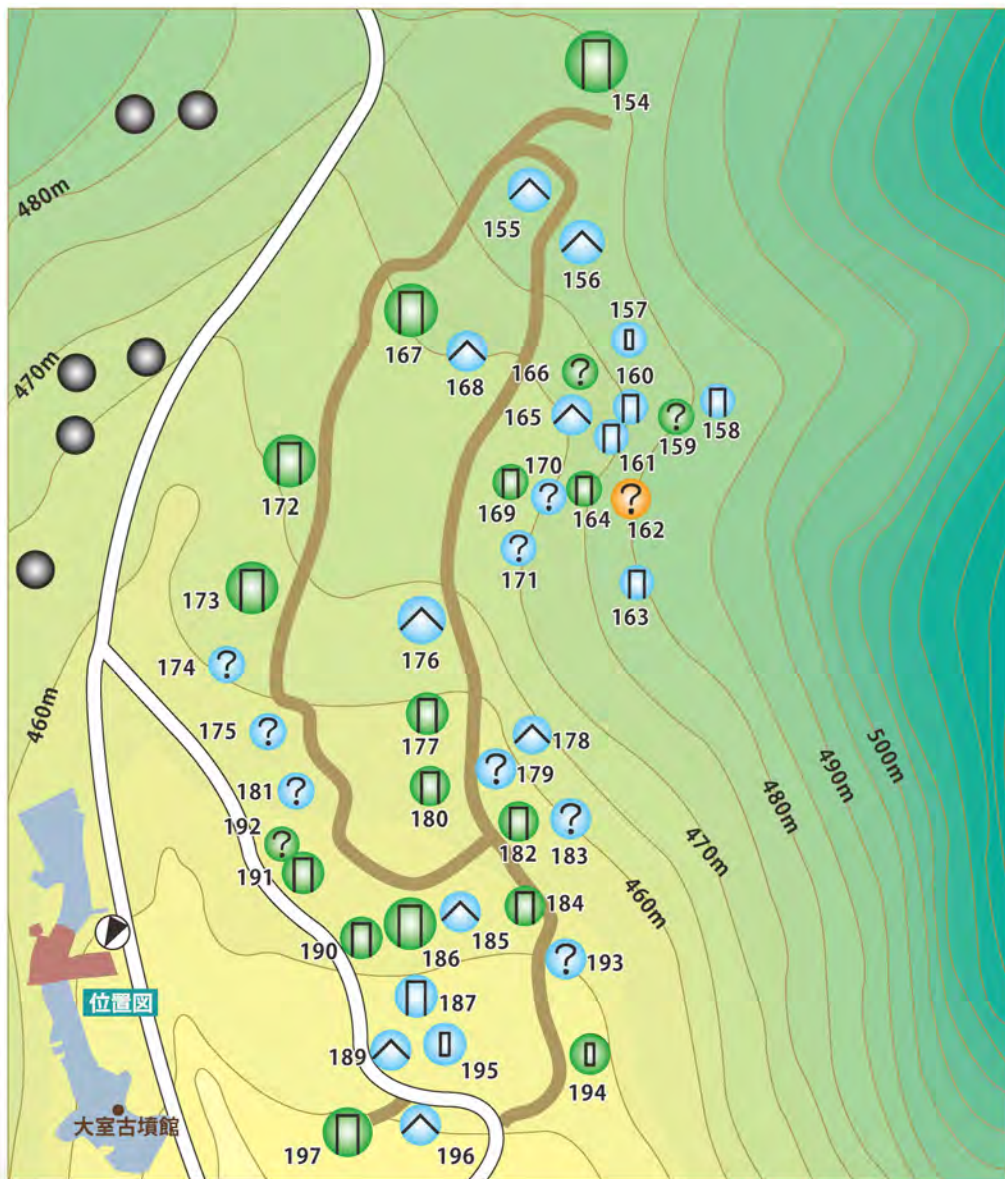
大室古墳館から10分ほど林道を歩くと、合掌形石室をもつ積石塚や大きく開口する横穴式石室がたくさん残された場所があります。ここでは地元でムジナゴロと呼ばれ、スギやカラマツがうっそうと生い茂る中に古墳が連なる大室古墳群ならではの景観が広がっています。

墳丘

- 積石塚
- 土石混合墳
- 盛土墳

埋葬施設

- ^ 合掌形石室・箱形石棺
- 竪穴式石室
- ▭ 横穴式石室
- ?



ムジナゴロの古墳分布

187・189・195号墳

境がわからないほど三つの積石塚が密着し、石が累々と広がっています。187号墳が横穴式石室、189号墳が箱形石棺、195号墳が竪穴式石室とそれぞれの古墳の埋葬施設が異なっており、5世紀後半から6世紀後半にかけて189→195→187の順につくられたと考えられます。



176号墳

長さ26m、幅20mの大きな積石塚ですが、墳丘が一部壊されており、墳形は不明確です。斜面上側に偏って合掌形石室があることから、別の埋葬施設が存在する可能性や、複数の古墳が集まっている可能性が考えられます。未だ謎の多い古墳であり、今後の発掘調査による解明に期待がかかります。



168・165・156号墳

合掌形石室をもつ積石塚で、屋根形の天井が比較的良好に残る168号墳は大室古墳群を代表する古墳の一つとしてよく知られています。いずれも円墳で、おおよその直径は165号墳が8m、156号墳が8.4m、168号墳が14mです。165号墳には同一墳丘内に二つの合掌形石室があります。



186号墳

直径約13mの円墳で、墳丘・横穴式石室ともによく残されています。開口部近くの墳裾から出土した馬骨(歯)は、被葬者と馬との関わりをうかがわせる重要な資料です。このほか、石室内からは土器、刀や鉄鏃などの武器、馬具、挂甲(よろい)、玉類など豊富な副葬品が出土しています。



大室古墳群と石

大室古墳群では通常よりもたくさんの石を使って古墳をつくっていますが、古墳時代の人々はこの多量の石をどこで手に入れたのでしょうか？

大室古墳群で使われている石は、290万～240万年前の奇妙山の火山活動で産出された安山岩で、現在でも露頭や転石として山中のあちこちで見ることができます。古墳時代にはこうした中から古墳づくりに適した石を切り



エントランスゾーンから見える岩壁

出したり採取したりしていたと考えられ、石材の入手は比較的容易だったと想像されます。

積石塚が発達した原因にこうした石の豊富な環境を重視する考えもあり、渡来人が関係したとする「渡来人説」に対して「環境自生説」と呼ばれています。

古墳と「お宝」

古墳、特に石室からの出土品は、被葬者が生前に身に着けた装飾品や使用した道具などが遺体と一緒に納められたものです。のちの人々を魅了する優れた造形のものも多く、しばしば古墳は盗掘の被害に遭ってきました。

大室古墳群でもほとんどの古墳が盗掘されており、目ぼしい出土品は伝わっていません。また、発掘調査での出土遺物も見た目が地味だったり、破



E号墳出土の人骨と耳飾り

片だったり、小さかったり、墓荒らしが興味を示さなかったか見逃したであろうものがほとんどです。

一般にそれらはとても「お宝」に見えませんが、古墳がつくられた年代や被葬者の立場を知るうえで重要な手がかりであり、考古学者にとっては大事な「お宝」なのです。

古
コ
ラ

古墳をつくった人はどこに住んでいたか？

日本屈指の大規模古墳群をつくった人たちがどこに住んでいたのか、この疑問には今でもはっきりとした答えが出ていません。というのも、規模や出土品から古墳群との直接的なつながりが認められる集落が、これまでの発掘調査で見つかっていないのです。

古墳時代後半期の集落が扇状地上や千曲川自然堤防上に広範囲に分布しているのに対し、古墳は南部の大室古墳群（約500基）と北部の吉古墳群（約100基）に集中していることを考えれば、長野盆地南部に展開する集落が広域的に大室古墳群の形成に関わっていたのではないかと想像することができます。



エントランスゾーンから望む長野盆地

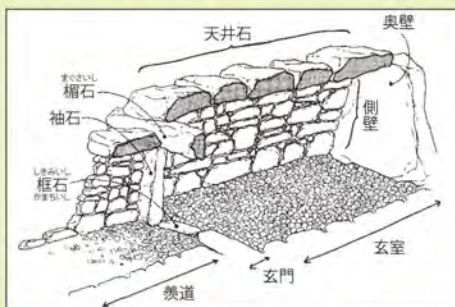
墳
うム

横穴式石室と黄泉国

暗くジメジメとした横穴式石室の中はそれほど気持ちのいい場所ではありませんが、古代人でもそれは同じようです。奈良時代に成立した日本最古の歴史書である『古事記』に収められた神話から具体的に見てみましょう。

男神イザナギは亡くなった妻の女神イザナミを連れ戻そうと暗い黄泉国（＝玄室）を訪れます。火を灯したイザナギは変わり果てたイザナミの姿（＝遺体）を目にし、現世との境にある黄泉比良坂（＝羨道）まで逃げ戻って入口を石で塞ぎました（＝閉塞）。そしてイザナミと絶縁し、体のケガレを清めました。

この神話から、横穴式石室を古代人が「暗くけがれた死者の世界」と認識していたことがわかります。



横穴式石室の内部構造（『長野市誌』より）

ご利用案内

交通



公共交通機関

長電バス屋代須坂線「大室駅」バス停から徒歩20分

自動車

上信越道「須坂長野東IC」または「長野IC」から15分

お願い

- ・国道403号線の「関崎橋東詰」交差点付近から案内板がありますので、それに従ってお越しください。
- ・バス停から古墳群までは道幅が狭く、大型車は通行できません。ご注意ください。

大室古墳館



住所

長野市松代町大室310

開館時間

午前9時から午後5時

休館日

- ・月曜日（祝日に当たる日はその翌日）
- ・祝日の翌日（土・日を除く）
- ・12月1日から翌年3月31日（冬期休館）

最新の情報は長野市HP (<http://www.city.nagano.nagano.jp/>) でご確認ください！

史跡 大室古墳群 バンフレット（平成27年3月発行）

【表紙写真】 上: エントランスゾーン全景
下: 189号墳

長野市教育委員会文化財課 埋蔵文化財センター

〒381-2212

長野市小島田町1414（長野市立博物館内）

Tel 026-284-0004

Fax 026-284-0106

E-mail maibun@city.nagano.lg.jp

長野市の文化財を 長野市文化財データベース
もっと知りたい！ デジタル図鑑

<http://bunkazai-nagano.jp/>

QRコード

スマートフォン等で読み取ると「デジタル図鑑」のトップページにアクセスします。

